

令和4年度 第1回大正区総合教育会議

日 時：令和4年7月21日（木）

午後7時00分～午後8時28分

場 所：大正区民ホール

○前田こども・教育担当課長

定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第1回大正区総合教育会議を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、大正区保健福祉課こども・教育担当課長の前田でございます。どうぞよろしくお願いたします。着座して御説明させていただきます。

この本会議につきましては、子育て・教育・青少年健全育成に係る課題に特化した議論を行うため、平成29年度に新しい会議体として設置してまいりました。本日の会議は全て公開とさせていただきます。また、総合教育会議開催要綱第5条に記載のとおり、議事録を公開することとなっており、撮影させていただきました写真等とともに、後日、ホームページ等で公開させていただきますので、御了承いただきますようお願いいたします。

続きまして、委員の皆様を御紹介させていただきます。お手元の名簿順にお名前を申し上げますので、恐れ入りますが、その場での御起立をお願いいたします。

まずは、岡本委員でございます。

○岡本委員

岡本です。よろしくお願いたします。

○前田こども・教育担当課長

北村委員でございます。

○北村委員

こんばんは。お願いします。

○前田こども・教育担当課長

佐藤委員でございます。

○佐藤委員

佐藤茂です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

田畑委員につきましては、遅れて参加すると確認しております。

福本委員でございます。

○福本委員

福本です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

松浦委員でございます。

○松浦委員

松浦です。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

松本委員でございます。

○松本委員

よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

なお、岸本委員、藤井委員、山崎委員におかれましては、本日御欠席でございます。

続きまして、区役所側の出席者を御紹介いたします。

大正区長の古川でございます。

○古川区長

本日はありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

副区長の村田でございます。

○村田副区長

村田です。いつもお世話になっております。ありがとうございます。

○前田こども・教育担当課長

私、こども・教育担当課長の前田でございます。よろしくお願いいたします。

次に、松川代理でございます。

○松川こども・教育担当課長代理

こども・教育担当課長代理の松川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

また、オブザーバーといたしまして、本日は、中学校より大正北中学校、松田校長先生、小学校より平尾小学校の飯塚校長先生、大正区社会福祉協議会より廣瀬事務局長様。

○廣瀬オブザーバー

廣瀬でございます。よろしくお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

こども・子育てプラザより久保マネージャー。

○久保オブザーバー

久保と申します。よろしくお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

これらの皆様からの御参画をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

市議員の出雲議員におきましては、お忙しいところ御参画いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○出雲市議員

どうぞよろしく、皆さん、お願い申し上げます。

○前田こども・教育担当課長

なお、市会議員の小山議員、府議会議員の金城議員、川岡議員におかれましては、公務のため、御欠席されております。

本会議は1時間30分の設定としております。本日の会議終了予定時刻は午後8時30分となっておりますので、御協力をお願いいたします。時間に限りはありますが、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、最大限スムーズに進行ができますよう努めてまいりますので、御理解、御協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、古川大正区長より、御挨拶よろしく申し上げます。

○古川区長

改めまして、皆さん、こんばんは。総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この総合教育会議では、その時々のアップ・トゥ・デートな議題を皆様に御提示して、忌憚のない御意見をいただき、施策につないでいくということを目指して実施してございます。

令和3年度は不登校の子どもたちを何とかしたい、というテーマで、こどもの居場所の關係に議論が収れんしていったという経緯がございました。その居場所の形というのもいろいろあるねということで、昨年度までの議論は、個人に近い形で、心意気で居場所をつくっていききたいという北村委員のような方から、岡本委員のように、地域の皆さんで、ボランティアでもうとっくにやっていますよという方々、あるいは今日は御欠席ですけど、岸本委員のようにクラブをつくって、そこに集ってもらおうじゃないかということで、補助金も取ってきてやってみようという、いろんな居場所の

形があるというのが昨年度までの議論でございました。これを収れんさせて、何とか居場所をこの大正区につくっていきたいねということで、今年度も引き続き、こどもの居場所の議論をさせていただくことになりました。居場所の支援をつなげていくためのいろんな居場所の御提言がありましたので、こういう居場所をつないでいって、区役所は支援に回るという形で、ネットワーク事業というような形で、今日の御提案もさせていただいているところでございます。

この本質の居場所の議論とは別に、また、総合教育会議に課せられている課題がございまして、会議においては、所管の施策等に関する計画や方針について皆さんに御意見を伺うことになっておりますし、それから、施策のうち主要なものについては、実績や評価をいただくということになってございますので、多少細かい表がついた議論も、居場所の議論に先立ってやらせていただきます。ということで、ちょっと長丁場、長時間になりますが、今日の議論をよろしくお願いしたいと思います。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございました。

それでは、会議を進めてまいります。

令和4年度第1回会議におきましては、大正区こどもの居場所支援ネットワーク事業（案）について、活発な議論、意見交換をしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、報告事項といたしまして、書類番号1、令和3年度子育て・教育・青少年健全育成にかかる事業及び施策の自己評価及び書類番号の2、令和4年度子育て・教育・青少年健全育成にかかる事業及び施策について御報告させていただきます。

○松川こども・教育担当課長代理

すみません、失礼いたします。こども・教育担当課長代理松川でございます。よろしくお願いいたします。着座のまま失礼いたします。

それでは、非常に時間も限られた中ですので、全事業紹介というのではなく、主な事業につきまして御説明をさせていただきたいと存じます。

それでは、A3の書類番号1のほう、御覧いただけますでしょうか。1枚目の一番下に記載しております「こどもサポートネット」の実施について御説明させていただきます。

目的欄に書かれてるんですけども、子どもの生活に関する実態調査から、①困窮度の高い子育て世帯には複合的な課題がある。②諸施策はあるが十分に届かず適切な支援ができていないというようなことが明らかになっており、教育分野と福祉分野が連携した総合的な支援が必要となっております。支援の必要な子ども（世帯）を発見し、適切な支援につなぐ仕組みを構築することで本事業が始まりまして、子どもたちが多くの時間を過ごす学校におきまして、それぞれ抱える課題をスクリーニングシートで抽出し、アセスメントを行い、具体的、効果的な支援につながるよう、各関係機関等と連携しながら実施しております。

業績目標及び成果目標の実績につきましては、表に記載のとおりでございます。各学校におきまして、アセスメント会議を実施し、支援の方向性、方針を決定した後、支援が必要とされた児童生徒全てを何らかの支援策につなげ、関係機関と情報共有や検討などを行い、目標に向けて取り組んでいる、そういう状況でございます。

続きまして、2ページ目を御覧いただけますでしょうか。真ん中の段にあります就学前（4歳児、5歳児）こどもサポートネット事業についてでございます。

妊娠期から3歳までは、母子手帳の交付に始まり、各種健診などの母子保健制度により、また、小学生から以降は、先ほど御説明させていただきましたこどもサポートネット事業により、子どもの健康や生活状況などを把握しておりますけれども、こうした既存の制度では、いわゆるはざまの4、5歳児の状況把握がほかの年齢と比べると不十分となっているような状況がございました。そこで、この年齢の子どもの状況を区内各保育施設、幼稚園等において、全件把握することで、抱える課題を早期に発

見し、必要な支援につなげていく、そうすることによって、妊娠期から中学生までの間、切れ目のない支援を継続して行い、もって児童虐待の未然防止を図り、重大な虐待ゼロを目指すことを目的としまして、本事業は令和2年度から実施しているところでございます。

実績におきましては、スクリーニング会議の開催回数では、昨年度コロナ禍の影響もありまして、減となっておりますが、成果実績につきましては、具体的な機関へ100%つないでおりまして、成果目標としましては達成しているというふうに評価をしているところでございます。

続きまして、4ページに行きまして、一番上段に書いております学習・登校サポート事業についてでございます。

学校の授業以外で学習機会の少ない生活困窮家庭の児童やひとり親家庭で家庭学習機会が失われている児童、また不登校や病気による長期欠席等で学習機会を逃した児童生徒に、家庭や学校、関係機関を含めた場所で、事業者による一人一人の状況に応じたきめ細かい学習サポートや登校に向けた支援を行い、そして、基礎学力の向上を図り、貧困の連鎖を断ち切る一助とするとともに、児童生徒の健やかな育成を図ることを目的として実施しております。こちらの事業につきましては、昨年度の総合教育会議の場でも、この不登校及び学習支援の施策の一つとして御紹介、御説明をさせていただいたところです。

実績では、こどもサポートネットのスクリーニング会議Ⅱで本事業の支援が必要と判断した対象児童生徒へ具体支援を行った割合が、前年度より僅かながら低く、92.7%から92.3%となっていたため、自己評価欄は三角という形にはなっておりません。成果実績では、事業に参加した児童生徒が以前より学校の授業が分かりやすくなったと感じる割合は80%以上としておりますが、アンケート結果の総合的な数値としましては、若干下回っておりまして、78から79%となっており、自己評価欄は三角にはなっているものでございます。

ただし、こういった全体的な数値では読み取れないところではございますし、ここには記載はされてはいないんですけれども、実際の参加者の個別設問のアンケート回答の結果としまして、生活面において、無気力な状態になる機会が減ったと答えた割合が増えたことや、自分の将来に対して楽観的に思えるようになったと答えた割合などが、令和2年度よりも上昇しておるところでございまして、子どもの自己肯定感向上に一定効果が見られてるといふふうに考えているところでございます。

続きまして、そのすぐ下です、民間事業者を活用した課外学習支援事業についてでございます。

本市では、全国学力・学習状況調査及び大阪市子どもの生活実態調査の結果等から、課外学習時間の短さが課題として現れており、各学校内での取組だけでなく、課外学習の充実が求められ、各区において課外学習支援事業が進められているところでございます。当区におきましても、これら課題解決に向け、生徒の基礎学力の向上及び学習習慣の形成を図ることを目的としまして、民間事業者の学習支援のノウハウを活用した放課後課外学習を実施しております。

事業実績におきましては、30名中16名となっております、ちょっと目標は達成してない形にはなってるんですけれども、成果目標実績におきましては、参加前より学校の授業が分かるようになったと回答した割合が、それぞれの教科におきまして目標値70%を大幅に上回っているところでございます。

すみません、以上、駆け足でピックアップしてお伝えをさせていただきました。以上、4点を主な事業としまして、自己評価の説明とさせていただきたいと思っております。

また、引き続きまして、書類番号2のほうですね、こちらもA3の用紙になってるんですけれども、令和4年度の事業及び施策につきましては、基本的に令和3年度の事業と大きな変更等はなく、引き続き各施策につきまして、設定した成果目標等に向けて、現状、取り組んでおりますことから、時間の関係上もございまして、説明は省略させていただきたいと存じます。

以上、大変駆け足で説明して恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

ただいま報告しました報告案件につきまして、何か御意見、御質問等ございませんでしょうか。

特にないようでしたら、次の議題に移らせていただきたいと思います。

この令和3年度の事業の結果を踏まえ、そして、令和4年度につきましては、この記載のされている事業についてはしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、本日の議題でございます、大正区こどもの居場所支援ネットワーク事業（案）について御議論いただきたいと思います。書類番号の3、大正区こどもの居場所支援ネットワーク事業（案）を御覧いただきたいと思います。

○松川こども・教育担当課長代理

すみません、それでは、書類番号3のほうですね、こちらのほう御説明をさせていただきたいと思います。

まず、1、現状と分析でございます。

(1) こどもの居場所に関するアンケート（結果概要）でございます。こちらは、大阪市全体のアンケート調査を実施した結果というふうになっております。Q1では、「こどもの居場所に行ったことがありますか」との質問に対して、「いいえ」、「わからない」が9割を占めています。Q2では、「こどもの居場所に行ったことがないのはなぜですか」との質問に対して、「どこにあるか知らない」、「何をしているところか知らない」が5割以上を占めております。書いてますように、行政として、より一層、周知・広報に努めていく必要があるのではないかと考えているところでございます。Q3では、「今後、こどもの居場所に行ってみたいと思いますか」との質問に対して、「はい」が2割を占めており、「わからない」を含めると5割以上という形になっておりまして、潜在的なニーズがあるのではないかというふうには考えております。Q4では、「こどもの居場所に望むことはありますか」との質問に対して、

「家の近くにあってほしい」、「学校の長期休みに開けてほしい」、「勉強を見てほしい」が6割以上を占めており、身近な地域で勉強等の学習支援が受けられる学校以外の居場所を求める声が多いということが分かってきております。

次に、ページめくっていただきまして、(2) こどもの居場所の設置状況(大正区)についてでございます。令和4年6月1日現在、把握してる状況についてでございますが、区内小学生校区に開設している箇所数は6か所でございます。居場所の内容につきましては、食事提供のみが3か所、食事提供と学習支援が2か所、その他、1か所という形になっております。

続きまして、(3) 不登校の状況について御説明させていただきます。大阪市の小・中学校における不登校児童生徒数は年々増加傾向にございます。不登校児童生徒の在籍比率というのにつきましても、小・中学校ともに大阪市は全国を上回っております。大正区は全国、大阪市を上回っている状況にございます。

これらの状況を踏まえまして、大正区における課題でございます。次、2番の課題というところになるんですけども、大阪市におきましては、こども支援ネットワーク事業を実施しておりまして、この事業は市社協を事務局として、子どもの居場所を社会全体で支える仕組みとなるネットワークづくりが行われておりますが、大正区独自のネットワークは存在していない状況にございます。また、実施されたアンケート調査の結果では、②地域で子どもを総合的支援することや居場所に対する潜在的なニーズがあることが分かってまいりました。大正区で実施しておりますこどもサポートネット事業を通じて、③不登校など支援につながりにくい複雑で困難な課題を抱える児童生徒への適切な支援が必要であるということも課題として見えてまいりました。

3番の今後の方向性につきまして、まず、1点目として、行政、地域、企業、区社協などの関係機関等が情報共有・連携しながら、こどもの居場所づくりを支援するためのネットワークを構築してまいりたいと考えております。2点目としまして、支援につながりにくい、そうした複雑で困難な課題を抱える児童生徒に対して、家庭、学

校以外の場である地域の居場所や関係機関等につなぐなどの適切な支援を行っていき
たいというふうに考えております。

1点目のこどもの居場所づくりを支援するためのネットワークにつきましては、ま
たページ変わりました、4、具体的な取組に記載しておりますが、大正区こどもの居
場所支援ネットワーク（イメージ）（案）として、今検討しております。ネットワー
クにつきましては、行政、地域、企業、区社協などの関係機関等が情報共有・連携し
ながら、こどもの居場所づくりを支援するためのものというふうに、こちら表示をさ
せていただいております。なお、2点目の家庭、学校以外の場である地域の居場所や
関係機関等につなぐなどの適切な支援につきましては、現在、こどもサポートネット
事業と連携して実施している学習・登校サポート事業におきまして、これらの課題を
踏まえ、どのような取組ができるのか、現在検討中でございます。また、具体的な取
組につきましては、今後、御説明をしていきたいというふうには考えております。

最後のページなんですけれども、こちらは参考ということで、右肩に表示しており
ます。大阪市こども支援ネットワーク事業についてでございます。

この事業につきましては、こども青少年局が社協に対するネットワークの運営に係
る費用を補助しているという事業でございます。事業内容につきましては、地域でこ
どもの貧困などの課題解決に取り組むNPO法人や団体等を支援するために、大阪市
社会福祉協議会と連携して、活動団体に対し物資提供や支援活動を行うものという形
になっております。

こちらの資料の説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○前田こども・教育担当課長

本日の議題でございます大正区の子どもの居場所支援ネットワーク事業につしまし
て、まず、現状分析、そして課題、今後の方向性、そして具体的な取組等をお示しさ
せていただきました。

これらの内容につきまして、活発な議論、御意見をいただき、今後、また区役所等

で何ができるのかを検討していきたいと思いたすの、でどうか御意見等、よろしくお願いいたします。

そうしましたら、すみません、岡本委員のほうで、何かこの件に関しまして、御意見等ございますでしょうか。

○岡本委員

居場所についてということですか。

○前田こども・教育担当課長

はい。

○岡本委員

各地域それぞれ抱えてる問題が違うので、どう言っていいのか分からないんですけど、私どもの地域で言わせていただくと、どうだろう、居場所ということ、今日もちょっと区社協さんにお手伝いいただきまして、この間、すみれキッチンでお菓子配らせていただいたものを、ちょっと支援が必要なうちに今日配ってきたんですけども、何ていうのかな、その配ってるおうちっていうのは、スクリーニング会議で上がってるおうちではないんですね。やっぱりスクリーニング会議で上がってくるっていうのは学校内での問題を抱えてるお子さんが上がってきて、その子どもたちはちゃんと学校にも来てるんですけども、やっぱりちょっと、何ていうのかな、お母様だったり、御家庭のほうでちょっと危ういなって思わせる部分があるので、私たちは支援を入れていきましょうっていう形で支援を入れてるんですけども、なかなかやっぱり見えにくいんですね、家庭の中っていうのは。だから、何ていうか、そういう子たちにしっかり支援を入れていくためには、今のスクリーニング会議の、登校してまず、学力がこれだけちょっと落ちています何とかっていうことではなかなか見えづらくだんだんなってきたのかなっていうふうに思われたりするの、やっぱりしっかりいろんな、最近はちょっと地域活動も、徐々にですけど復活してきて、その中でお子さんのお母様だったりお父様だったり、地域活動を通じて、そこに遊びに来られ

たりとかして見させていただいて、あ、ちょっとしんどいかなって思うようなことがあったら、ちょっと支援を入れるように地域全体で、学校のほうとも相談させていただいて、ちょっと気になるんですけどっていう形で支援を入れてるんですけども。居場所ってなってくると、どう、それが三軒家西に必要なのかどうかっていうことになってくると、どうかなっていうふうには思うんですけどね。

すみません、まとまらなくて申し訳なんですけど。そうですね、地域それぞれあるので、御飯が食べられないとかなんとかっていうまでのひどい家庭はちょっとないかなって思うんですね。すみれキッチンで朝御飯をやり出したんですけども、それも何人か食べてないということはいってたんですけども、やっぱり朝御飯を食べることで、1日、こんなに快適に過ごせるんだよっていうことを子どもたちに、だから、お母さんが作ってくれなくても、自分で頑張っけて起きて、どうにかしなさいっていつ言っている。やっぱり居場所も大切かもかれないけれど、自分たちで生きていく力っていうものをしっかり子どもたちに、じゃあ、支援支援ではなくて、その中で子どもたちが自分で工夫して生きていくっていう、子どもらなりの工夫っていうのが今見えてきてて、そんな学校、みんながそんなしだしたら大変なんですけども、それも、ほかの子たちが、いやあ、食べてるわとかじゃなくて、そういうのも認めているっていうか、子どもたちも、ああ、ああ、食べてやんねんなみたいな感じでやってはったりとかして、そういうたくましい子もいるので、何かまあまあ、それは何かいいかなと思って見てるんですけど、すみません、もう取り留めのない話で、申し訳ない。

○前田こども・教育担当課長

すみません、急に質問して申し訳ございません。

○村田副区長

岡本さん、ありがとうございました。

○岡本委員

すみません。

○村田副区長

手も挙げてないのに。

○岡本委員

何を言っているのかよく分からない状態なので。

○村田副区長

そうですね。このA3の資料を見せられて、いきなり岡本委員へ「何か意見を」と言われてもって感じで、申し訳ございません。

○岡本委員

いえいえ。

○村田副区長

この資料で何を言いたいかといいますと、データについては当たり前のことを書いておきまして、この現状と分析のところに、「こどもの居場所に行ったことありますか」、「いいえ」、「わからない」が9割占めてるのは、当たり前ですが、調査対象がこどもの居場所がない小学校区の児童なんです。こどもの居場所がない小学校区の児童に、こどもの居場所に行ったことありますかって、そんな質問をしてるんです。こどもの居場所に行ったことないとか、どこにあるかが知らないとか、なぜなら居場所が校区にはないので、当たり前のことを聞いてるんです。

ただ、ここで言いたいのは、「こどもの居場所に行ってみたいと思いますか」ということが、2割ぐらいあります。やっぱり家の近くにあったらいいよね、そういうお声があるというのを、ここでお示ししたかったわけなんです。

そのほか、不登校の状況も、大正区でやってることで資料お示しさせていただいているんですが、実を言うと、この居場所に関するテーマで去年からずっと同じ話をしています。この会議を主催しながらいつまでこの議論をやっているのかという気もしてるわけですが、そろそろ具体的に動く必要があるということをお話したうえで、区役所としてこれから具体取組みを検討していきたいと考えています。

実際に、来年度、再来年度、これから大正区で、こういう居場所というのをどうしてつくっていったらいいのか、地域の皆さんに任せっきりでいいのか、いやそうではなくて、役所が支援させていただきますということを打ち出す必要があります。

地域としても役所はこれをつくらんかいと、子どもたちが区役所に居場所を求めてくるのか、そのようなこともないと思いますので、居場所というのを実際に作るために、具体的に動く時期かなと思います。

今頃かという話もあるかもしれませんが、今後はそういった議論をしていきたいということで、問題提起としてこの資料を出させていただきました。

ご提示したネットワークについては、こういうものを社協さんと一緒につくってやっていきたいなと思ってますというのをらせていただいています。

○岡本委員

わかりました。

○村田副区長

今回、お聞きしたいのは、以前、佐藤委員がおっしゃっていた、ボードゲームですよ、あれ、鶴町で継続することができなかったけれども、いろいろと課題があつて大変だったと。特にお金の問題で、場所借りるのもお金がかかると、そういうお話があつたと思います。あれから何か進みましたでしょうか。

それから、以前、山崎委員も何かやってみたいというお話がありましたので、山崎委員からも、こんなことを考えており、ここが足りないから、ちょっと役所に、こういったことを頼むわとかいう話をお聞きしたかったんですが、今日は休みというか欠席されていますので、申し訳ありませんが、佐藤委員から、今、こんな感じで進めるとか、ちょっと難しく、今、こういったことに困っていると、何かそういう御意見があつたら、お聞かせいただきたいと思います。

○佐藤委員

ありがとうございます。ボードゲーム、前回、ここで話しさせていただいて、本

日来られてないんですけど、岸本さんのところで、一度開催をさせていただきました。岸本さんから毎回来てほしいというふうには言っていたんですけど、いかんせん、僕がなかなか時間つくれなくて、そこに関しては1回切りということですね。でも、本当にこのコロナの状況でなければ、僕もやっぱり週1、今ちょっと言っちゃいましたけど、週1ぐらいは、やっぱりそういうことに時間を使っていくべきかなとも思ってるので、そこに関しては進めていこうかなというふうに思ってます。

今、僕、ちょっと週1でやっていきたいと、この場で言わせていただいたんですけど、先ほど話もあったんですけど、話を具体的に進めていくためには、いつまでに形にするっていうことを明確にしないといけないなって考えてまして、例えば国家試験受かりたいんです、いつか、これ多分かなわないと思ってて、じゃあ、実際、僕が50年後に国家試験受かったからって何ができんねんというのもあるので、本当に1年でやる、2年でやるっていうところは、ちょっと宣言したほうが自分の行動にもつながってくるので、僕はそこすごく大事にしてるので、皆さんもというか、僕、子どもたちにも言ってることなんですけど、きちんとそこは意識しいよっていうふうに思っています。

なんで、ちょっと僕自身も言っておいて、具体的に何かっていうことはまだまだ弱いなと思ってるんだけど、しっかりできることは、自分にできることはやっていこうかなというふうに考えてますので、あと何か、行動のヒントあれば教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○村田副区長

それ、岸本委員とされたというのは、場所は鶴町で。

○佐藤委員

ええと、千島のプログラミングされてるところに、僕お邪魔させていただいて、2時間、3時間ぐらいいただいたのかな、でも、すごく、子どもたちも来てくれて、楽しんでいただけたんで、あんな顔見ると、やらんとあかんって思いますね。

○村田副区長

ありがとうございます。やっぱり学校としたら、学校というか、子どもたちには校区を越えて行くのはなかなか難しいよねという話あるんで、やっぱりこれは鶴町でやればなというふうに思うんですけども、その辺はどうなんですかね。

○佐藤委員

はい、やりたいです。

○佐藤委員

やりたいというか、やります、すみません。

○村田副区長

ありがとうございます。

○佐藤委員

課題は、場所ですね、場所。

○前田こども・教育担当課長

今回、この内容については、昨年度と引き続きということなんですけども、今回、提案させていただいた部分についてちょっと補足すると、こどもの居場所の支援については、例えば資料のほうで、参考でつけております、大阪市のこども支援ネットワーク事業、これは、大阪市のこども青少年局が大阪市社会福祉協議会に対して、このこどもの居場所の支援について活動するに当たって補助を支援しております。これは大阪市のネットワークでございまして、こういったネットワークが全体であるんですけども、まず、大正区の中でこういったきっちりしたシステムがないのではないかとということで、今日、来ていただいております大正区の社会福祉協議会の廣瀬事務局長ともいろいろ相談させていただいて、やはり全体のシステムはあるんですけども、大正区でこういった、まずネットワーク、いわゆる関係機関が集まって、しっかりと顔の見える関係もつくりながら、もし、今、佐藤委員がおっしゃっていただいた、居場所をつくりたいねんというときに、どういう支援があるかと、例えば補助金の支援あ

りますとか、例えばこの地域の中でこういう場所がありますとか、そういったところが各関係機関で共有して提供できればなという部分がありまして、まず一つは、大正区版のこども居場所支援ネットワーク、関係機関が連携してこういったネットワークをつくりたいという部分と、もう一つが、小学校、中学校で課題を抱える児童生徒の支援を検討するこどもサポートネット事業というのがございます、そこで課題のある子どもたちについてはどういう支援をしていくかという部分で、適切な支援につなげるように検討していますが、やはり支援につながらない子どもたちもおります。そういった方々については、例えば居場所っていうところに導くことによって、そこで、学校とか自宅ではなかなか学習とかそういうのができないという部分であれば、今、まだ検討段階ではあるんですけども、そういった課題のある児童生徒の支援として、大正区として、行政として居場所いうのを設置できればなと、それについては今検討しているんですけども、いわゆる居場所でも対象者が広い部分と、今、申し上げたような課題のある方々への支援については行政がまずやってみる。居場所っていうのはいろんな課題があると思いますので、最終的には地域で子どもをしっかりと見ていくという部分については、地域で居場所をつくっていただく方向にはなると思うんですけども、まずはそういった仕組みづくりと、また、支援につながらない方については行政でやってみたりという、そういうようなものを検討していきたいと思っておりますので、今回、補足説明させていただきました。これに関しまして、また、御意見等ございましたらお願いしたいと思っております。

○岡本委員

居場所ってということなんですけれども、地域の中でまだちょっと水面下での話なんですけれども、私どもふれあい喫茶というのをやってまして、その中で、今ちょっとコロナ禍ですので、テークアウトのみというふうになってるんですけども、それが正常化したら、ふれあい喫茶ウイズすみれキッチンという形で、月2回ではありますけれども、子どもたちの朝御飯、子どもたち、幼稚園とか小学校とか中学校まで、ち

よっと中学校でもちょっと気になる子どもさんがうちの地域の中にいるので、その子たちも入れたいので、中学生までを、大人は100円頂いてるんですけども、無料という形で、月2回、招待できないかなっていう話を今してまして、そこが子どもたちの居場所となってくればいいなっていう話を、今、地域の、まだ水面下ですけども、話を、もうここ2年ぐらい、コロナの前からやってるんですね。コロナになっちゃいまして、ちょっと今できない状況なんですけれども、ふれあい喫茶が通常化した時点で、そういう形で地域の中に、これがこども食堂と呼べるものになるのかどうかは分かりませんが、それをやることで、多分来る子たちが固定されてくるかなっていうふうに思うので、そうなってくると、お手伝いもお願いして、やっぱり君たち、ありがとうっていう言葉を周りの方からかけてもらえるような形にしたいと思うんです。役に立つんだよっていうことで、ありがとうって言われることはこんなに感動するんだよっていうことを子どもたちに教えていけたらいいなっていうふうに、地域の中で今話をしてるんですね。それをちょっと近々ですけど、食べることで、コロナが落ち着いてからですけども、していきたいなというふうに思っています。その中には、必ず支援が必要な子どもさんをピックアップして、もう必ず連れていこうと思ってるんですけども。という形で、三軒家西のほうは、それがちょっと居場所になればいいかなっていうふうに考えてます。

以上です、すみません。

○前田こども・教育担当課長

どうもありがとうございます。

○古川区長

一通り聞いてみたいと思います。北村委員、その後、どうですか。ご自宅のガレージから始まって、いろんな取組をやっていこうということで、会館使っても多少お金かかるしってというようなお悩みを前回までお話しされてましたけど、その後、どのようになりましたか。

○北村委員

うち、地域としてはまだまだ先の話で、今、福祉会館の建て替えで、来年ぐらいまでかかるし、その後、集会所の件もあって、そこで何とかそういうのは考えてるんやけども、ただ、これ、見とったら、大正区でこんなん調べんはったん、食事提供とかあんなんやってるとこあるんでしょ、なんやたっかな、すみれキッチンとか、あつこれらとか、こういう居場所に関するところで、大正区って、そこからの要望とか支援とか聞いてんの。これ、ただただ、さっき言うた、大阪市がやってるとこのデータだけで意味ないやつでしょう。大正区で、既存のあるところからもっと、こんなんしてほしい、あんなんしてほしい、もっと場所提供してくれとか、そなんん聞きましたか。現実やってるところに聞いたほうが早いんじゃないですか。

○前田こども・教育担当課長

このアンケート結果につきましては、いわゆる居場所を実施していない小学校区にアンケートしておりますので、そういった実際のやっるところの声ではございません。

○北村委員

居場所の何を実施してない小学校。

○前田こども・教育担当課長

こどもの居場所を設置していない小学校区に対してアンケートを取ったものでございます。

○北村委員

いや、だから、あるところのいろんな意見聞いて、ほんで、ないところにその意見を生かしたもんをつくるようにしたらええんちゃうの。そなんん、全くないところで、こんな案、出せ言うたって、無理な話や。ほんで、要するに地域でそういうのを考えてんねんけども、時間かかるし、僕、そもそもこういうの教育でしょう。教育のできてへん親が子どもを育てる中で、ほんで、深夜徘徊や家に帰ってけえへん子どもとか、い

ろんな子どもが居場所で救えるっていう考え方でしょう、そんなもん、もともと教育の話ですよ。その教育すんのに、人間変えるのに10年、20年かかりますんやで。だけど、大阪市も国も教育に金出しとらんでしょ。こんな底辺でやったって、なかなか直ること違うし、それは地域としては、そういうのを末端で何とか受皿をつくらうって考えてるんやけども、大正区とか大阪市とか、国がもともとそういうのを教育改革とか、子どもの教育に関して何にも予算当てせえへんのに、末端でやっとなんか仕方ないことや、仕方ないことですよ、いつまでたっても終われへん話ですよ。本当に大阪市とか国が考えんのやったら、その辺もってこ入れしてすんのが当たり前やと思うけども、何もせんと、こんな末端だけでやるのんやったら、あんまり進まん話ちゃうのと思うよ。

これ、ずっと読んどったって、こんな、いつになったらできる話や。何を支援すんの、全く分からへん。うちは例えば、集会所でそういうもんをつくる際に、こういうのを協力してくれとか、いろんなこと考えてるんやけども、だけど、そんな今、こんな言うたって、すぐに解決するもんやないし、そんなもん。

○岡本委員

だから、国がしないから、地域とか民間のボランティアでやりましょうっていう発想じゃないんですか。

○北村委員

そんなんでできるわけないでしょう。国がせえへんのに。

○岡本委員

ううん、でも。

○北村委員

教育すらせえへんのに、そんな子どもなんか、いつまでたってもできてくるわけやん。

○岡本委員

だから、何ていうかな、他人が、私は思うんですけど、だから、子どもはやっぱりその世界しか知らないから、だから、育った環境しか知らないから。

○北村委員

いやいや、俺言うてんの、その子ども育てる親が教育受けてへん親や。

○岡本委員

だから、そう。

○北村委員

そのまた親って、もう一つ教育受けてへん。

○岡本委員

うん。だから、他人がそうじゃないよっていう姿を見せてあげるっていうのが居場所。

○北村委員

他人もそうやんか。もともとね。

○岡本委員

私せやけど、そんなん言うたら、もう何もかもがおしまいになってくるから。

○北村委員

何もかもおしまいの、日本の国やんけ、そんなもん。

○岡本委員

そう。でも、おしまいにはなっていけへん。

○北村委員

せやから、末端でやんのが普通やねんけども。

○岡本委員

うん。だから末端でやりましょうって。

○北村委員

上からこんなんしてて言うたって意味ないしょっていう話。

○岡本委員

うん、だから音頭を取りましょうかっておっしゃってるんじゃないんですが。

○北村委員

誰が。

○岡本委員

皆さんが。

○北村委員

俺らが。

○岡本委員

そうそうそうそう。

○北村委員

大正区って何できんのんっていう話やろ、大阪市って何できんのんっていう話やろ。

○岡本委員

じゃあ、もう政治家になるしかない。

○北村委員

ネットワークのこんなんつくってどうすんのんっていう話でしょう。地域ごとにそんなんつくっていったらいいだけの話で。

○岡本委員

そうそうそう、だから、そうしましょうっていう話。

○北村委員

それをなんかこんなまとめる・・・

○岡本委員

まあまあ、でも、資料として、たたき台としてこれは出してくれはってるだけの話であって。

○北村委員

いや、要らんよ。

○岡本委員

それ、要らんのやったら、それは見いひんかったらいいと思うんですけど、でも、やっぱり親を選んで生まれてくるわけじゃないし、だから、私らが、私も、何ていうのかな、学校に行かせてもろうて10年になるんですけど、支援員で行かせていただいて、その中で子ども見てて、子どもと接するときには何を思うのかっていう、何をどうしてあげたいかって思うと、いや、子どもやから、その世界しか、その家庭しか知らないんで、そうじゃないよって、こういう大人もいるんだよって、こういう大人もいるんだよっていうところを。

○北村委員

まあ、僕、協助力員やってるときにも、悪い子ようさんいて、家庭も見ました。

○岡本委員

そうです。

○北村委員

そやけども、協助力員やってるときでも、悪い子は悪い家庭しか見いひん、ええ家庭なんか見る環境なんかあらへん。

○岡本委員

だから、そういう環境をつくって行ってあげないといけないんじゃないんですかっていう話でしょう。

○北村委員

このアンケートでも出てるやん。そんなんことしてることすら知らんねんで、情報入ってきいへんさかいやんで、これ。

○岡本委員

情報入ってこないかもしれへんけど、これがまた大正、まあまあ、いっぱい言うたらあれですけど、違う区とかになると、本当にすごい状況があつて、本当に、

ええっていうようなところもあるわけですよ。

○北村委員

それやったら、大正区も、よその区ができてるところ見習おうてやっていったらいいだけの話。

○岡本委員

それはそれで、また、何ていうのかな、何て言ったら。

○村田副区長

北村委員のおっしゃることも、岡本委員のおっしゃることも、どちらも正しいと思っていて、北村委員といつもしゃべってて、胸に刺さってくるが、役所が動かないのかという話なんですけどね。役所が動いて、お金を出さないのかという話なんです。

そろそろ話も煮詰まってきた、具体的に動かないというのが、今さっき、前田課長から少し説明があったと思いますが、ネットワーク支援、支援支援といっても、何を支援するのかんのか分からないかと北村委員もおっしゃいますけど、確かにそのとおりで、それならば、何をするのかと、要は具体的に来年度に向けて、考えたいというのが、さっき前田課長が申し上げたことです。

実際に、役所としても、居場所づくりを具体的に進めたいと考えています。

それから、実際の居場所を立ち上げたいというところについては、その地域と、あるいは立ち上げようと思っている人と区役所が一緒になって、お金取りにあって、事業をやりたいなと考えています。今日はそこまで話しする予定ではなかったんですけど、そこまで考えたいなと今考えてるところです。

○岡本委員

いいです、いいです、すぐまた忘れはるから大丈夫。

○村田副区長

補助金の活用も考えてるところです。

○北村委員

いやいや、協助手員やってるとき、たしか、西成やったかどっかで、小学校の廃校で、そこを社協と協助手員と・・・といろんなこと協力して、そこで子どもにキャンプをさせたり、畑させたり、ほんで、その畑で取れたやつでカレー作って食わせたり、何かそんなんやってるとこ、僕、見学に行ったんですよ、一回。ほんで、すごいええことやなっていうて、ちょっと何や、どっかで話したことあんだけど、あと、どないなってるのか、一個も分からへんけどね。もし、そこが成功しとったら、そんなもん、大阪市内でもっと広まっていく話や。こんな話なんか、もう10年、10何年前ぐらいの話やから、それを大阪市が取り上げて、そこにもっと予算組みして、そこで・・・渡って、43渡って、右っ側の小学校、何ってとこ。

○岡本委員

右っ側。

○北村委員

津守小学校、何かあるやん。

○岡本委員

津守とか。

○北村委員

あの辺のところでやったんやけども、やろう思うたら、もう10何年も前からできる話やと思う。

○岡本委員

ずっと言うてはったんです、もうずっと、10何年前からね、居場所は必要やって、協助手員してはるときもずっと言うてはって、具体的な話までやってはったんですよ。例えばコミ協の空いてるお部屋借りて、そこに居場所のない子たちを呼んできて、いろんなことできへんかなみたいな、ね、10何年前にね、言うてはったんで。

○北村委員

昔・・・。

○岡本委員

そのときの気持ちを思い出して、ほら。

○北村委員

思い出して。

○岡本委員

なんで、だから、しっかりしたもんは持ってはるんです。

○北村委員

.....。

○岡本委員

述べ暴れるだけじゃなくてっていう。

○古川区長

じゃあ、ほかの委員さんの意見も聞きながらまとめに。

○岡本委員

すみません。

○古川区長

ある程度方向性が出ないといけない。

松浦さん、どうですか。もう国がやらなきゃ駄目だというふうになると終わっちゃうのでね、この議論。大正区あるいは地域で、少しずつできることがあれば、区も支援していきますと、こんな話なので。

○松浦委員

すみません、ほな、ネットワーク大事なのかもしれないんですけども、その先にあるもの大正区は何を目指してるのかっていうのが見えない限りは、議論をしても全部無駄なんじゃないかな。区の中で、大正区で、6地域でそういった事業をしてるから、10校下全部にしたいとか、何かしらのそういうこどもの居場所づくりをするようなことをするっていうのは目標であるとかっていうものがないと、今のネットワー

クを作りますっていうだけの話で、その先が見えない。皆さん議論したところで、どう進めていっていいのか分からない。その中で、じゃあ、大正区としてこの5つぐらい案がありますよと、その案には、このA案をするんのやったら、こういう補助金がありますよとか、助成金を出しますよと。その5つの中から、各校下でできる範囲のものを選んでくださいとかってというような提案をしてもらわないと、話していてもなかなかできないところもあるかと思います。

僕の地域については、もう岡本委員がお話しになられたんで、僕はしゃべることもないんですけども、そういった中で、青少年指導員としての、やはり市から委嘱をされて、大正区の方針に沿って、青少年の健全育成を目指すということで活動してるんですけども、そういった中で、区としても、じゃあ、青少年指導員で各校下で、年に1回は、10校区は必ずそういった活動しなさいという方針を持っていただければ、こちらのほうでも動けますし、それに伴って、今の予算では足りないので、上乘せの予算も必要になってくると思います。そういった総合的なところを区として出していきたい。

このこどもの居場所づくりってというのは、この総合教育会議の前、村田副区長なら知ってるかと思うんですけど、地域の人たちが集まって、青少年健全育成の会議をやってたんですけども、そのときからずっとこの話ってというのは出ているんです。出ては消え、出ては消えという形で、なかなか具体的にも進まなかったというところもあるので、区としての方針をきちんと、先に見えるビジョンを出していきたい。

居場所をつくるのであれば、1か所につくっても意味がないよと。今日、子ども・子育てプラザの方来られてるんですけども、いや、僕は子育て世代のときに、そこに行ったかっていうたら、行かないんです。鶴町の人にはわざわざ43号線超えてまで来るかっていうたら、なかなか行けないんで、そうなると、やはり自分の地域にそういう拠点がないと意味がないと思うので、そういったところ含めて、区のほうには方針を出していきたいと思います。

○前田こども・教育担当課長

どうもありがとうございます。

そうしましたら、福本委員、もし御意見ございましたらお願いしたいと思います。

○福本委員

居場所についてなんですけど、この6か所、食事提供とか学習支援してるところって、やっぱりお金が必要だと思うので、そういうところの支援が役所としてしていただければなど、今、泉尾東地域でも宿題カフェやってるんですけども、月1回は必ずしてんですけど、やはり食事提供する上での予算というのは必要になってくるので、いろいろな活動を通じて抽出したお金で提供してるっていう形を取ってます。本当は月2回ぐらいはやりたいんですけど、予算の関係で月1回しかできない、人手が足りないというのも一つあるんですけど。何とか継続して何年かやってきて、どんどん、泉尾東小学校自体の生徒の数は減ってきてるんですけど、宿題カフェに来る子どもたちは増えてきていて、一番多いときで60名ぐらい、200何人の中で60人ぐらい来てるので、どんどん浸透してきて、少しは居場所になってるのかなと思います。

あと、居場所については、一つお伺いしたいんですけど、つつじ塾を中央中学校でしてると思うんですけど、中学生の塾として、助成金でいけるということで、なんですけど、そこをやっぱり1か所、中央中学校にしかない一つの場所にしてしまうと、大正区、こんだけ、バスでしか移動手段ができない場所で1か所っていうのはどうなんかなど。しっかり学力向上等を目指すのであれば、もう1か所ぐらいつくってもいいのではないかなと思います。いろいろそういう行かせてる親、お子さんとかの話を聞いてると、やっぱり遠いというのと、あと、毎年ではないんですけど、ころころ変わりますよね、塾の会社が、あれもちょっとどうなんかなど。いいなっていう年、いい業者、ちょっと言いにくいんですけど、ここの業者で今年はよかったってなったのに、次の年に、また評判悪いところに変えたりとかあるので、ちょっと一定して、1年ごとじゃなくて、せめて2年、3年継続していただいて様子見るっていうのもどう

なんかかなと思います。

小学生に対しての居場所ってというのは、各地域でそういう居場所を設けるといのは今できることは、地域で見守りとか、こういう開設箇所をつくっていくことしかできないかなと思うんですけど、中学生に関しては、そういうつつじ塾とか、もう一つぐらいつくってもらって広めていただけると、学力向上につながるのではないかなと思います。行きたいっていう子がいてるんですけど、遠いからちょっとやめとくっていう意見とか聞いているので、どうでしょうか。具体的にすぐできるとしたら、そういうところかなと思います。よろしくお願いします。

○前田こども・教育担当課長

御意見ありがとうございました。

今、御質問のあったつつじ塾の件でございますが、今、大正中央中学校で実施しているところでございます。今おっしゃっていただいたように、学力支援ということで、この大正区では独自でつつじ塾という民間事業者を活用した課外学習支援事業を実施しているところでございます。

このつつじ塾は、いわゆる対象者を特に限定していないが、同じような学力支援ということで、学習・登校サポート事業を大正区では独自で実施しております。この学習・登校サポート事業での学力支援というのは、こどもサポートネット事業における小・中学校のスクリーニング会議において学習・登校などの支援が必要な方について実施していますので、今、一般の方を対象としたつつじ塾と学習・登校サポート事業でやってる学力支援というのがございますので、そこを整理もしながら、今おっしゃっていただいているように、大正区の中で、中学校一つで本当にいいのかとかいうところは、また検討してまいりたいとは思います。

○古川区長

業者が毎年変わるの仕方ないんですね、これは。大阪市のルールなので。

○前田こども・教育担当課長

業者の選定につきましては、公募型プロポーザル方式により事業者を募集しています。今おっしゃっていただいているように、特定の事業者に固定するっていうのはなかなかちょっと難しいのかなと。プロポーザルの中で、事業者が変わって事業の方針が変わるということになってはいけないと思っておりますので、必要な最低限やっただくことを明示して、そういった中で事業者選定しておりますので、今おっしゃっていただいているところはちょっと難しい部分もございます。申し訳ございません。

○福本委員

選定してるのは分かってるんですけど、だから、そこをちゃんと明確に、ここだけはどういうことしてくださいというのを明確にはしてほしいなと思います。話聞けると、多分そういうの伝わってないですよ、業者は。ちゃんと吸い上げて、通ってる子だとか、通ってる親御さんに話聞いたことありますか、直接。

○前田こども・教育担当課長

そこまでまだ、アンケート結果等でしか、私どもちょっと把握してない部分もございます。

○福本委員

せっかくいいことやってるのに、もうちょっとちゃんとできたほうがいいなと思いますので、ちょっとここで発言させてもらったんですけど、もうちょっと吸い上げてもらったら、僕個人ではそういうことは言えないですけど、ちゃんとしっかり意見吸い上げてもらったら、もっといいものになるんじゃないかなと思います。

○前田こども・教育担当課長

こういった意見をよりしっかりと反映した形でプロポーザルもしっかりとやっていきたいと考えておりますので、またよろしく願いいたします。

そうしましたら、松本委員のほう、もし御意見ございましたら、どうでしょうか。

○松本委員

岡本さんって民生委員やから、どんな子が具体的に支援必要とか分かるじゃないで

すか。

○岡本委員

民生委員では分からないんです。

○松本委員

でも、名前上がったりますよね、学校の・・・。

○岡本委員

あ、学校でね。

○松本委員

うん。

○岡本委員

でも、私は、民生委員で上がってくる子のところに、じゃあ、スクリーニング会議に上がってくる子のところに支援に行ってるかいったら。

○松本委員

違う違う、そういう意味じゃなくて。

○岡本委員

じゃなくて。

○松本委員

僕らってそういう名前も、誰がどうかも分かんないレベルじゃないですか。

○岡本委員

ああ、なるほど、なるほど、はいはいはい。

○松本委員

例えば各地区に民生委員さんいらっしゃるんやから、こういう方向の支援が南恩加島では必要ですよとかっていうのをまず分からないことには、南恩加島で何をしたらええんかが全く見えてこない。ざくっとこう居場所つくるって話したら、さっき村田さん言うたみたいに、全然実現に向かわないじゃないですか。例えば御飯食べら

れない子が南恩加島多いよ、こども食堂つくっていきましようねとかっていうのを、まずアンケートじゃないですけども、知りたい。

それと、不登校の子とかって前も言うてたけども、じゃあ、大正区で、不登校の子にアンケート取ったらええと思うんです。そういうのをまずしたらどうかなと思うんですけど、ほんまにこの居場所づくりを進めていくんなら。ざくっと毎年こんなんしたらええよねってする会議やったら、もうええかげんやめたらええと思いますよ、僕。以上です。

○前田こども・教育担当課長

御意見ありがとうございます。居場所につきまして、今、御意見ございました、いわゆるニーズっていうのは、やはりしっかりと見ていかないかんとは思いますので、その辺をまたニーズの把握の仕方等について、しっかりと検討していきたいと思っております。

○岡本委員

個人情報壁があって、なかなかその情報を、本当に言ったってくれって思うんですけども、なかなか。

○松本委員

いや、松本君が頭悪いから塾やってくれじゃなくて。

○岡本委員

そうそうそう。

○松本委員

勉強がやったほうがええよとかという方向性だけが見えないから。

○岡本委員

うん、そうですよね。だから、それはやっぱり地域の中でコミュニケーション取っていただいて、だから、私らも、支援行きますっていうけども、でも、私らの地域の中で、これを余ったら持ってきますっていうけど、じゃあ、誰に持っていったんねん

なんて誰も言わないし、そこはもう暗黙の了解で、みんな、うん、分かった分かったみたいな感じでやってくれはるので、すごく私らは動きやすいんですね。それを一々、ほんなら誰に持って行っててんの、ここの家はどうかのってなってくると、これもまたできなくなっちゃうので。だから、その辺の。

○松本委員

いや、まあまあ、家には持ってかんでええと思うんですけど。

○岡本委員

えっ。

○松本委員

家に持ってくとかじゃなくて、具体的に……。

○岡本委員

ちゃうちゃう、ちゃうちゃう、だから、何ていうの、形として、だから、何かをするに当たっても、何ていうのかな、家に持っていくとか持っていかないじゃなくて、だから、やっぱり個人が特定できてしまうじゃないですか。だから、そののところがうちは。

○松本委員

いや、僕、個人知りたいたいんじゃないで。

○岡本委員

じゃないかもしれないけれども、でも、確実に支援を入れていきたいわけでしょう。

○松本委員

いや。

○岡本委員

そうじゃなくて、だから、南恩加島で何が。

○松本委員

例えば、御飯食べられへん家が多いと、南恩加島、そしたら、こども食堂やったら

ええじゃないですか。

○岡本委員

はいはい。学習支援が必要やったら学習のほうの支援をしたらええ。だから、それはやっぱり地域の中でどうなのかっていうことを話ししてもらわないと。

○古川区長

まずニーズを把握しようということですね。

○岡本委員

そうですね、ニーズ、そうですね。だから、それは。

○古川区長

だから、その把握の方法がいろいろあるということね。

○岡本委員

そうですね。

○古川区長

確かに岡本さんのように、日々に活動を通じて、ニーズが自然に入ってくるっていう地域もありますし。

○岡本委員

そうそうそう。

○古川区長

アンケートをずばり取れというのも、確かにおっしゃるとおり、いろんな効果はあると、それぞれよい点はあると思うんですね。まとめるのが難しくなってきましたね。

今日の、先ほどからお話に出てる、このネットワークという概念は、もう、ただの事務局のたたき台ですので。これ、つないだら何か生まれてくるわけじゃないんですよ。私もそう思ってるので、これはあくまで、今日、こんなイメージで進んでみませんかという提案をただけなので、この4番のページは。今日の御意見を踏まえて、このページはがらっと変えられますので、そこはいろんな御意見をいただければと思

います。

区役所が、じゃあ、予算を取って何ができるかっていうのは、非常に実は限られてるので、わずかな予算をどうやって使うかっていうのも、これから考えていかなきゃいけないと。正直、区役所独自の予算というのはあまり無いんですね。重点事業で取ってきたものを何とか活かす、みたいな、そんな側面が強いので、そこは無いなりに知恵を絞っていくしかないのかなという部分もございます。また、次回の議論に、そこはつながっていく部分なんですけどね。

ひと通り御意見いただきまして、次は、どんな展開でまとめに入っていこうかというところですが。

○佐藤委員

すみません、よろしいですか。

○古川区長

はい、お願いします。

○佐藤委員

今回、居場所づくりっていうお話だったんですけど、やっぱり北村さん言うてはったみたいに、僕、本当に長期的にやらんといけないことと短期的にやれることって違うと思ってて、僕もやっぱり親だと思うんですね。その不登校になってる理由というのも本当に様々で、やっぱり親の考え方っていうところも大きくあると思ってて、本当親の教育自体が大事やと思うんですよ、例えば子どもとの関係性をつくるために何をするのかとか、もっと言うと夫婦関係とか、そういうコミュニケーションのところ。

僕は、前にもここでお話ししたんですけど、子どもの宿題、音読聞くときに、スマホ触りながら聞いてませんかとか、学校から帰ってきたら、今日は休み時間にどんなことがあったのって、何して遊んでんの、誰と遊んでのっていうこととか。あと、僕は家の中で、僕の最大の仕事っていうのは、妻の話を聞いてあげることだと思ってるんですけど、やっぱり妻、仕事をしてないので家にいてるんですけど、子どもと会話

してるようでしてないんですよ、しついでしゃべってるだけ。なので、僕は、今日どんなことがあったのって、妻に、もうずっと話を聞く、これが僕、多分一番やるべきことだと思ってますけど、多分そういうことを知らないっていうか、思ってもいない男の人も女の人もたくさんいると思ってて。そういうことをちょっとずつでも伝えていければ、コミュニケーションが円滑に運んで、子どもたちとの付き合い方もってなってくると、そういうことが学校に対する意欲とか勉強に対する意欲につながってくると僕は信じてるんですけど、これってすごく時間がかかることなので、これはあくまで長期的にそう向かっていったらっていうことで。

今回、話ししてるのは、じゃあ、短期的に我々って今何ができるかっていうところだと思うんですね。意見もたくさん出てたんですけど、じゃあ、その居場所づくりって、それこそ不登校をなくしたいのか、でも、不登校でもいいじゃないっていうのも思うんですよ、その場所にいたいと思ってるんだったら、それがつらいつて思てなければね、僕は本人が。あとは勉強、学力を向上をさせたい、そういう場所なのかっていうところもきっと具体的に考えながら、そうですね、こういうふうになりたいから意見をっていうほうが、もっと具体的な話ができるいくんかなと思ったので、また次回お願いします。

すみません、あと一つ、月に1回やるのが、どこまで子どもたち、お父さん、お母さんに対して影響を与えられるのかなっていうのもすごくあって、でも、そこにはやっぱりお金の壁もあるし、人の壁もあるって思うので、そこは本当に地域の方、それこそ保育園の先生やってた、学校の先生をやってたおじいちゃん、おばあちゃんに、もう本当に手伝ってもらうのかとか、そういうこともすごく大事かなとは思いますが、月1、月2、なかなか難しいなと思います。だから、その課題も解決できればなと思いますんで。

あと、僕、鶴町地域でボードゲーム、次、ここに来るときには、絶対やってから来ますんで、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○前田こども・教育担当課長

御意見どうもありがとうございました。

○古川区長

田畑委員、いらっしゃいました。

○前田こども・教育担当課長

すみません、田畑委員、何か御意見等、もしございましたら。

○古川区長

来て、いきなり。

○田畑委員

すみません、仕事がなかなか終わることができなくて、終わる間際ぐらいの時間帯に来てしまって申し訳ないです。

取りあえずばあっと見させてもらいまして、こどもの居場所づくりっていうことでお話しされてたんだらうなぐらいしか分かってないんですけれども。ちょっと全く別の話になってもよろしいですか。

○古川区長

お願いします。

○田畑委員

ちょっと今、市Pのほうの主催になるんですけれども、高校進学説明会、こちらのほう、8月のほうに、西ブロック、福島区、此花区、大正区、港区、西区、浪速区、この6区で、オンラインないし、浪速区のほうではリアルのほうで開催させていただこうと思って、今、日々子どものほうにPR活動、どうすれば一番いいかっていうことでやらせてもらってる中で、中学校のほうにメイン的にお話しさせてもらってるんですけれども、そこで、いろいろな意見が出てきまして、この場でちょっとお伝えいただけたらということを知りましたので、少しお時間いただいってお話しさせてもらいますけれども。

中学校のPTAの区Pの実行のほうに入っていたいてる方から聞いた話なんですけれども、中学校のほうに、緊急メールっていう子どもたちへの何かあったときにメールを一斉的に配信するようなメールがあるんですけれども、ちょっと用途は違うんですけれども、そういった一斉メール、保護者への一斉メールを活用して、こういうことをPRできないかという案が出まして、ほかの区でしたら、それを存分に使って、変な話、区でこういう祭りあるから、みんな参加してよとか、こんなんしてるから参加したらどうとかいうのも、そういうのを使って配信してるので、大正区のほうも、そういうのを使えないかという意見がありまして相談したところ、やはり緊急メールなので、用途が違うから駄目だということを聞いたんで、一応区として、子どもの、中学生のどこの高校に行きたいとかいう目標を立てて、そこに向かって勉強することも学力向上につながっていくんじゃないかと思われまますので、そういった用途外と言わずに、一斉メールをしたいときは、そういうメールも活用できるような仕組みづくりをしていていただけないかなという意見がありまして、ちょっと協議はしていただいたんですけれども。やはりそういう使用外用途っていうのは難しいものなんですかね。

○村田副区長

ここ数年、ずっとPTAさん主催で進学説明会をしていただいております。それで進路決まった子もたくさんいたのではないかなと思います。

ただ、今おっしゃった、御提案いただいた方法としてはすごくいい方法かなと思いますけれども、学校のほうにも確認せなあきませんし、我々もその緊急メールについてどのようにして情報を集めて、どのように運用してるかっていうのを存じ上げませんので、また持ち帰らせていただいて、今日は先生方がいらっしゃいますが、オブザーバーですので委員の皆さんの御意見をお聞きする立場ですので、また確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。ちょっとまだ用途も何も、どういう仕組みか分からないんで、すみません。

○田畑委員

そうですね、緊急メールっていう言葉が悪いのか、一斉メールってすれば、別に問題ないんじゃないかなという思いがありまして、単なる言葉尻でしがらみがあるのなら、言葉変えたらいいだけやんなと個人的には思ってる次第なので、またそこら辺も検討いただけたらと思います。よろしくお願いします。

○村田副区長

事実確認だけさせていただきます。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

今回、居場所の支援づくりの支援にあたってネットワークの構築といった案を提案させていただきましたが、御意見いただいた中で、この支援の先に何があるのか、そういったところがやっぱりないと具体的に進めていけないと思いますので、その点につきましては、居場所の支援を通じて、大正区として具体的にどのように考えていくのか、一度検討させていただきたいと思います。

○村田副区長

前田課長、いつまでに検討するとかいうのを言わないと、佐藤委員に負けますよ。

例えば次の12月の総合教育会議で、こういうことをしていきますっていうのをちゃんとと言えるようにしましょうということでもいいですか。

○前田こども・教育担当課長

今回の総合教育会議までにしっかりと検討したいと思います。

すみません、最後に、区長にまとめていただきたいんですけど、その前に、すみません、1点、誤解のないように御説明したいのが、例えば、不登校支援の一つとして居場所づくりがあると考えています。不登校支援については、例えば大阪市教育支援センターでは、適応指導教室というのを設置して、しっかりやっていただいております。そういった中で、大阪市でも不登校の対策をやっておりますし、学習支援につき

ましても、各学校長の裁量によって、いろいろと学習支援もやっておりますので、その中で、区として、教育委員会や学校ができないところを支援していきたいと考えておりますので、一つの手段として居場所を考えたものでございます。

居場所については、対象者を限定しない、地域での交流拠点にすると、そういったところで、その中で学習支援をしたりとか、食事提供をしたりとか、地域の拠点として、子どもだけじゃなくて、高齢者、大人も集まって、地域の交流拠点を目指すというのも聞いております。もう一つは、課題を抱えるような子どもたち、そういったところもターゲットにするような居場所も聞いておりますので、区として検討していきたいのは、大正区でも、そういった居場所づくりをしたいと声があったときに、市社協さんのほうで、活動団体になると、物資とかそういったところの支援、提供受けられますので、そういったところも活用する、そして、不登校があれば、学校でも支援してる部分はあるが、学校でも対応できない場合区として支援できるものやしていきたいと思えます。御意見いただいた内容を踏まえて、再度、こどもの居場所支援、そして、その先どうしていきたいのかいうことを踏まえて検討していきたいと思えます。

すみません、そうしましたら、意見がないようでしたら、最後に区長のほうでまとめていただけないでしょうか。

○古川区長

すみません、そろそろお時間ということなので、まとめに入ります。今日はまとまるようなレベルではなくて、本当にたたき台をお示ししてございまして、いろんな意見、基礎的なところから、もうちょっと我々の活動が足りていないのではという意見までいただいておりますので、また、次回の総合教育会議までには、少し整理をした形で、再度お示しできるように、事務局としても頑張っていきたいと思っております。

その中で、私も今日、感銘を受けたところは、例えば北村委員や佐藤委員のように、そもそも教育の問題、親の教育からやれということ、ただ、これは長期的な話だよねということでありました。そのとおりでございまして、それをやっていたら大正区役

所として、何か先が見えてくるというものでもないので、ここは、この総合教育会議の場の議論においては、ぜひ中期的な、あるいは短期的な視点で何か取り組めないかということで、再度提案を絞らせていただきたいと思います。もちろん、根底にあるのは、長期に、親まで支援していかないと、虐待の連鎖と同じですよね、教育が行き届いてない家庭の連鎖になっていきますので、おっしゃるとおりだなというふうに感じたところでございます。

その中で具体の取組としては、岡本委員がおっしゃっているように、まだ実現には至ってないのかもしれませんが、ふれあい喫茶とすみれキッチンが統合するような、そんな理想的な居場所も確かにあるんだろうなと、これは本当に期待しているところでございますし、ボードゲームの会からやっていくという佐藤委員の、こういう子どもが黙っていても集まるような取組からやっていただくというのも、有効なんだろうなと思ってお聞きしたところでございます。

それから、松本委員からは、まず、ニーズ把握しなきゃ意味ないじゃないかということで、これ、ニーズの把握方法を含めまして、次回までにしっかり提案させていただきたいと思います。

それから、福本さんについては、宿題カフェ、現にやっているところでニーズが山ほどある、本当に集まる子どもがたくさんいると。宿題カフェの評判はいつも伺っておりますので、その辺の秘訣も含めて、また生かしていきたいと思ってますし、つつじ塾の在り方等についても、再度整理しておきたいと思っております。

本当にいろんな御意見、松浦さん、それから北村さんからも、そもそも先に何を目指してるのかということをしっかり議論しないと、このネットワーク、つながってるように見せかけてもしょうがないよねと、私も本当にそのとおりでございましたので、そこも含めまして、たたき台を作り直させていただきたいと思っております。

本当に今日は長時間ありがとうございました。それから、オブザーバーの方の意見を伺う時間もなくて、本当に恐縮でございます。また次回に続くということで、今日

はどうぞ御勘弁をいただきたいなと思います。また引き続きよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○前田こども・教育担当課長

ありがとうございます。

皆様には、議事進行に御協力いただきまして、本当にありがとうございました。本会議で議論した意見につきましてはしっかりと検討し、次回の総合教育会議までに、またお示ししたいと思ひます。

また、資料の中に、御意見シートを配付させていただいておりますので、本日の会議で発言できなかったことや内容に関しまして、また、御意見、御質問がございましたら、御記入の上、御提出いただきますようお願ひいたします。また、次回会議の開催に当たりまして候補日を記載しておりますので、ご確認お願ひいたします。

いただきました御意見、御質問に対する回答につきましては、後日、また、皆様に送付させていただくとともに、ホームページにも公開させていただきたいと思ひます。

それでは、本日の大正区総合教育会議は、これをもって終了いたします。

なお、お帰りの際は2階駐車場玄関からお願ひいたします。また、密集を避けるため、会議終了後の御退出に際しましても特段の御配慮をいただきますよう、御協力をお願ひいたします。

本日は遅くまで、誠にありがとうございました。

○古川区長

ありがとうございました。

—了—